

添付資料 2
2019年1月12日

新指導者資格制度概要

普及育成委員会・技術委員会



すべての人を、夢中にできるか。

目次

1. 改定の意図	3
1) 旧資格制度（現行資格）について	
2) 新資格制度の基本的な考え方	
2. 改定事項	8
1) 新資区分・名称	
2) 講習会カリキュラム内容	
3) 資格ごとの詳細	
①スタートコーチ	
②C級コーチ【新設】	
③B級コーチ（旧育成コーチ）	
④A級コーチ（旧強化コーチ）	
⑤S級コーチ	
4) 資格更新方法について	
5) 日本スポーツ協会指導者制度の変更点について	
6) 資格保有の義務について	
3. 旧資格制度からの移行について	20
1) スタートコーチの移行について	
2) 育成コーチの移行について	
3) 強化コーチの移行について	
4) トップチームコーチの移行について	
5) S級コーチへの移行対象者について	
6) その他の特記事項	

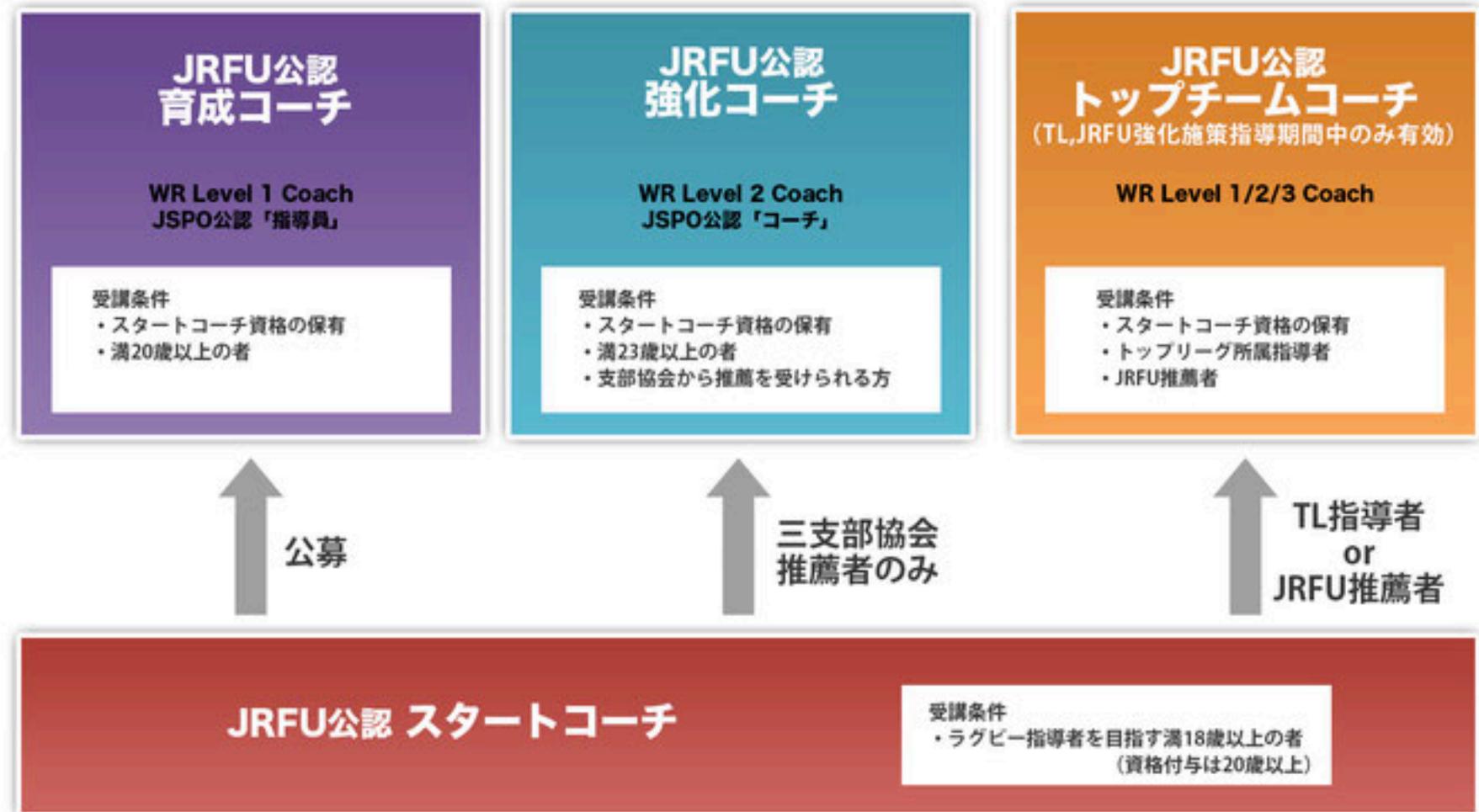
1. 改定の意図

- 1) 旧資格制度（現行資格）について
- 2) 新資格制度の基本的な考え方



すべての人を、夢中にできるか。

1) 旧資格制度について (現行資格)



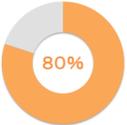
JRFU : 日本ラグビーフットボール協会 WR : World Rugby JSPO : 日本スポーツ協会

2) 新資格制度の基本的考え方

改定の大きな意図

- ・ 安全対策の充実
- ・ 指導者のインテグリティ保持
- ・ 段階的な指導技能の向上

JRFU指導者養成に関するアクションプラン

基本方針	施策・数値目標	取組
<p>1 資格保有者を増やします</p> 	<p>①有資格者数を10,000人に増やします <実績7,079人/2018年></p> <p>全体 目標:1万人</p> <p>②資格更新対象者の更新率を80%に高めます。 <実績57%></p> <p>更新率 80%</p> 	<p>【資格制度全体的見直し】 ・無理のないステップを踏める制度へ。積み上げ式に変更。C級コーチの創設。自己推薦でのステップアップ(受講条件の緩和)</p> <p>【スタートコーチの内容変更】 ・無資格者ゼロへ(時間の短縮→開催回数の増加)</p> <p>【C級コーチの創設】 ・スタートコーチから次のステップへ。継続的な学びの環境の整備。</p> <p>【S級コーチの創設】 ・最上位資格の明確化。</p> <p>【資格取得に向けた環境整備】 ・講習会の少ない地域や、運営体力のない地域については、三支部協会、日本ラグビー協会がサポートし、地域の活性化を図ります。 ・講習会の件数を増やすために、ラグビー関連団体(大学チーム、トップリーグチーム、その他)と連携を図ります。</p> <p>【情報発信の充実】 ・情報発信の拠点となるコーチネットの充実を図ります。またSNS等を活用した情報発信を行います。</p> <p>【オンラインブラッシュアップの導入】 ・スタートコーチとC級コーチで導入</p> <p>【コーチカンファレンスの開催】 ・B級コーチ以上を対象とした講習会を三支部協会で開催</p> <p>【既存の講習会の活用】 ・安全・インテグリティ推進講習会・学会等</p>
<p>2 指導者の質を高めます</p> 	<p>①学びを継続できる環境を整備します</p>  <p>②情報提供の充実</p>	<p>【積み上げ式の資格制度への変更】 ・所属やプレーヤーのキャリア、地域協会からの推薦の有無に関わらず、全ての希望者がステップアップできる制度にします。</p> <p>【地域協会、三支部協会、日本ラグビー協会の連携の強化】 ・講習会の少ない地域や、運営体力のない地域については、三支部協会、日本ラグビー協会がサポートし、地域の活性化を図ります。</p> <p>【講習会の数・機会の拡大】 ・講習会の件数を増やすために、ラグビー関連団体(大学チーム、トップリーグチーム、その他)と連携を図ります。 ・学会などを積極的に認定し、ブラッシュアップ講習会の機会の創設を行います。</p> <p>【コーチネット情報の提供】 ・情報発信の拠点となるコーチネットの充実を図ります。またSNS等を活用した情報発信を行います。</p>
<p>3 公認指導者資格者の活躍の場を作ります</p> 	<p>①有資格者の活躍の機会を創設します</p> 	<p>【有資格者の情報の提供】 ・講習会の情報発信や有資格者の活躍をホームページ等で広く周知します。</p> <p>【他部門との連携】 ・JRFUの他部門と連携を図り、大会等への資格の義務化や、有資格者の積極的に登用を促します。</p>



すべての人を、夢中にできるか。

カリキュラムの基本的な内容の考え方

- （公財）日本スポーツ協会指導者資格制度、WRコーチング資格制度と資格連動を図る。
- 資格を積み上げ式に変更し、継続的な指導技能の向上を図る。
- カリキュラム策定にあたっては、文部科学省「グッドコーチに向けた7つの提言」（平成27年）、（公財）日本オリンピック委員会「アスリート・アントラージュの連携協力推進」（平成28年）、（公財）日本スポーツ協「コーチ育成のためのモデルコアカリキュラム」（平成28年）、International Council for Coaching Excellenceモデルカリキュラムの内容を踏まえる。

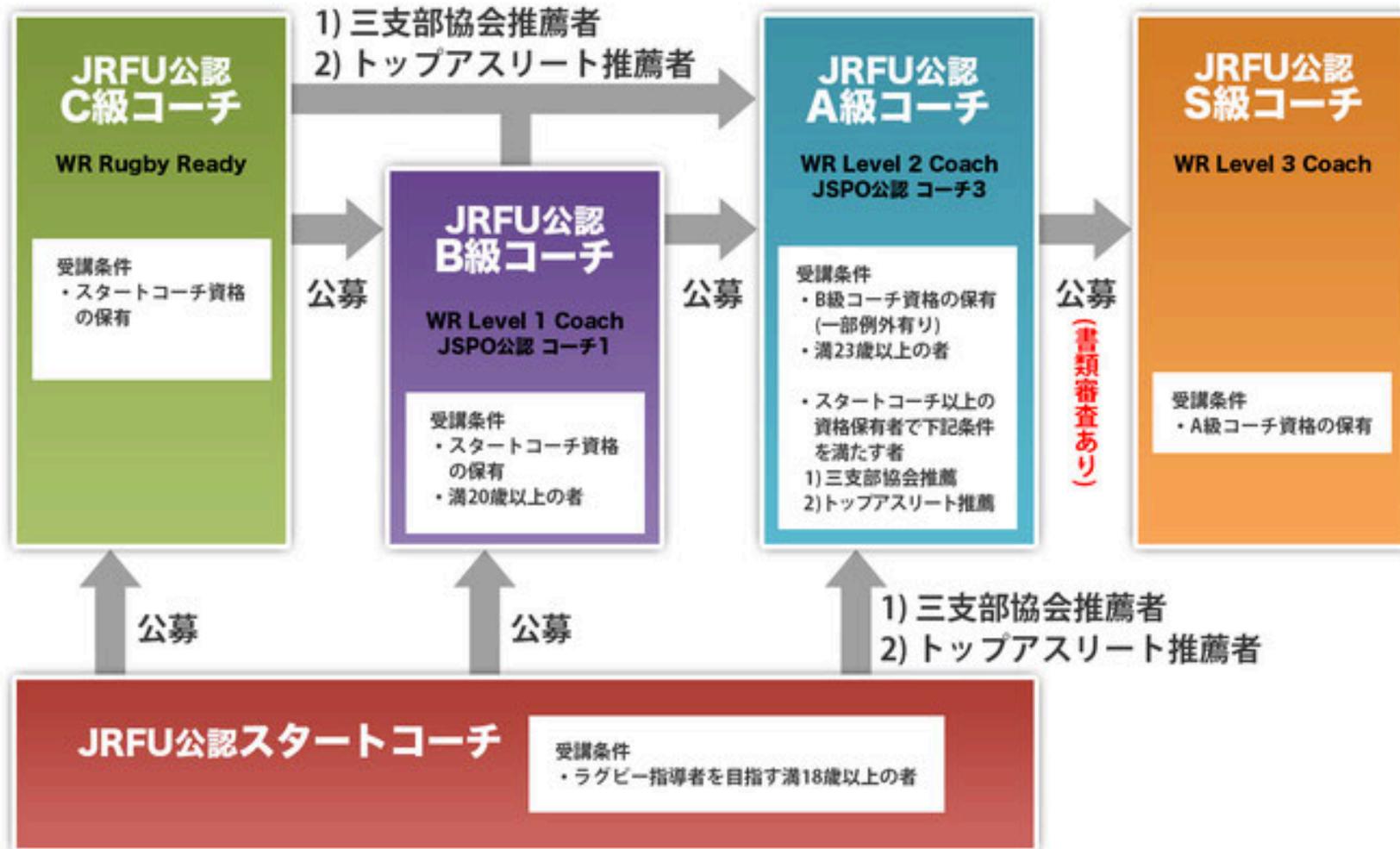
2. 改定事項

- 1) 新しい資格区分・名称
- 2) 講習会カリキュラム内容
- 3) 資格ごとの詳細
- 4) 資格の更新方法について
- 5) 日本スポーツ協会指導者制度の変更点について
- 6) 資格保有の義務について



すべての人を、夢中にできるか。

1) 新しい資格区分・名称



JRFU：日本ラグビーフットボール協会
WR：World Rugby
JSPO：日本スポーツ協会

日本スポーツ協会の資格変更に伴う名称変更
日本スポーツ協会公認「指導員」→「コーチ1」
日本スポーツ協会公認「コーチ」→「コーチ3」

2) 講習会カリキュラム内容

スタートコーチ	概要	日本でラグビー指導者として活動するすべての方を対象としています。ラグビー指導者の入口として必要なJRFUの安全対策に関する知識及び指導者としての基本を座学により習得します。
	カリキュラム	JRFUの指導者育成方針/安全対策/インテグリティの保持/プレーヤーを中心にした指導/ラグビー憲章/プレーの原則/年代別指導方法
C級コーチ	概要	個人のプレーヤーに対する実技指導の能力を習得します。スタートコーチの内容を実技を通して実践的に深める内容です。WRのオンライン学習コンテンツであるRugby Readyを受講義務としてWRの指導のフレームを用いて行います。
	カリキュラム	ラグビーの準備(リスクマネジメント)/JOCアントラージュプログラム/プレーの原則とスキルへの適用の理解/長期育成方針/個人を対象としたコーチングの手法
B級コーチ	概要	個人のプレーヤーに対する指導に加え、チームの課題に即した指導をする為の技能を座学と実技とを通して習得します。WRレベル1カリキュラムを用いて行います。
	カリキュラム	プレーヤーウェルフェア①/プレーの原則を用いたチーム分析/練習計画の策定①/キープファクター分析①/コーチングフィロソフィー/コアバリュー/セブンズ基礎/ラグビーのS&C①/その他 ※日本スポーツ協会科目Ⅰ
A級コーチ	概要	多様な視点からプレーヤーとチームを分析し、指導計画を作成する技能を座学と実技を通して習得します。WRレベル2カリキュラムを用いて行います。
	カリキュラム	プレーヤーウェルフェア②/チーム分析(主観分析・客観分析)/練習計画の策定②/キープファクター分析②/機能的役割分析(ファンクショナルロール)/ポジションの役割/シーズン計画/セブンズ基礎/ラグビーのS&C②/その他 ※日本スポーツ協会科目Ⅲ
S級コーチ	概要	年間計画、チーム戦略、戦術、チームマネジメントなど、チームを指導する為のすべての知識・技能を座学と実技を通して習得します。WRレベル3カリキュラムを用いて行います。
	カリキュラム	コーチとしての自己分析/チームビジョンの作成/プレーヤーの分析/チーム/ゲームプロファイル/プレーパターン/分析からのゲームプラン/クリティカルインシデント分析(ゲームの重大要因分析)/シーズンプランニング/チームマネジメント



すべての人を、夢中にできるか。

3) 資格ごとの詳細

①スタートコーチ JRFU公認

カリキュラム	日本でラグビー指導者として活動するすべての方を対象としています。ラグビー指導者の入口として必要なJRFUの安全対策に関する知識及び指導者としての基本を座学により習得します。 JRFUの指導者育成方針/安全対策/インテグリティの保持/プレーヤーを中心にした指導/ラグビー憲章/プレーの原則/年代別指導方法
時間	4時間
受講条件	年齢: 満18歳以上
受講料	3,000円
開催頻度(年間)	全国50回程度
受講可能人数(年間)	合計1,500名(1会場30名程度の50回) ※先着順
資格保有期間	4年間
資格更新方法	オンラインブラッシュアップ/都道府県協会ブラッシュアップ研修会/その他
主催	(公財)日本ラグビーフットボール協会
主管	都道府県ラグビー協会

講師条件：A級コーチを有する者

講師謝金：メイン講師 15,000円（助手3,000円）



すべての人を、夢中にできるか。

②C級コーチ JRFU公認

カリキュラム	個人のプレーヤーに対する実技指導の能力を習得します。スタートコーチの内容を実技を通して実践的に深める内容です。WRのオンライン学習コンテンツであるRugby Readyを受講義務としてWRの指導のフレームを用いて行います。
	ラグビーの準備(リスクマネジメント)/JOCアントラージュプログラム/プレーの原則とスキルへの適用の理解/長期育成方針/個人を対象としたコーチングの手法
時間	合計10時間(集合8時間/通信2時間)
受講条件	年齢:満18歳以上 /スタートコーチ資格保有者
受講料	8,000円
開催頻度(年間)	全国12回程度
受講可能人数(年間)	合計240名(1会場20名程度の12回) ※先着順
World Rugby連動資格	World Rugby Rugby Ready
資格保有期間	4年間
資格更新方法	オンラインブラッシュアップ/都道府県協会ブラッシュアップ研修会/その他
主催/主管	(公財)日本ラグビーフットボール協会

講師条件：A級コーチを有する者

講師謝金：メイン講師 30,000円



すべての人を、夢中にできるか。

③B級コーチ JRFU公認/JSPO公認「コーチ1」

カリキュラム	個人のプレーヤーに対する指導に加え、チームの課題に即した指導をする為の技能を座学と実技とを通して習得します。WRレベル1カリキュラムを用いて行います。 プレーヤーウェルフェア①/プレーの原則を用いたチーム分析/練習計画の策定①/キープファクター分析①/コーチングフィロソフィー/コアバリュー/セブンズ基礎/ラグビーのS&C①/その他 ※日本スポーツ協会科目 I
時間	合計105時間 ラグビー専門科目 合計60時間【集合30時間「3日間または4日間」/通信30時間】 JSPO共通科目 I 合計45時間【通信45時間】
受講条件	年齢:20歳以上の方 1)スタートコーチ資格保有者
受講料	合計34,920円 ※宿泊費、交通費は含まれません。 ラグビー専門科目:15,120円(税込)JSPO共通科目:19,800円(税込) ※教材費別途 3,000円(予定)
開催頻度(年間)	全国4回/年間(九州地区、関西地区、関東地区、東北地区)
受講可能人数(年間)	合計150名(1会場35名程度の4会場) ※先着順
日本スポーツ協会連動資格	JSPO公認ラグビーフットボール「コーチ1」
World Rugby連動資格	World Rugbyレベル1
資格保有期間	4年間
資格更新方法	コーチカンファレンス/都道府県協会ブラッシュアップ研修会/JSPO研修会/その他
主催/主管	(公財)日本スポーツ協会 (公財)日本ラグビーフットボール協会

講師条件：日本スポーツ協会規定（原則：A級コーチを有する者）

講師謝金：日本スポーツ協会規定



すべての人を、夢中にできるか。

④A級コーチ JRFU公認/JSP0公認「コーチ3」

カリキュラム	多様な視点からプレーヤーとチームを分析し、指導計画を作成する技能を座学と実技を通して習得します。WRレベル2カリキュラムを用いて行います。 プレーヤーウェルフェア②/チーム分析(主観分析・客観分析)/練習計画の策定②/キープファクター分析②/機能的役割分析(ファンクショナルロール)/ポジションの役割/シーズン計画/セブンス基礎/ラグビーのS&C②/その他 ※日本スポーツ協会科目Ⅲ
時間	合計230時間 ラグビー専門科目 合計80時間【集合44時間「5日間」/通信36時間】 JSP0共通科目Ⅲ 合計150時間【集合30時間「5日間」/通信120時間】
受講条件	年齢:満23歳以上の方 1)自己推薦者(B級コーチ資格保有者) 2)三支部協会推薦者(スタートコーチ以上の資格保有者) 3)トップアスリート推薦者(スタートコーチ以上の資格保有者) ・日本代表キャップホルダー(男女/7人制・15人制) ・トップリーグ30試合以上出場者 ・トップリーグチーム推薦者(1年に1名) ・JRFU技術委員会推薦者 ※推薦できるトップリーグチームは開催年度のトップリーグチームとする。
受講料	合計30,240円 ※宿泊費、交通費は含まれません。 ラグビー専門科目:10,800円(税込) JSP0共通科目:19,440円(税込) ※教材費別途 3,000円(予定)
開催頻度(年間)	全国4回(九州地区、関西地区、関東地区2回)
受講可能人数(年間)	合計160名(1会場40名程度の4会場)/年間 1)B級コーチ自己推薦者(合計30名程度)※先着順 2)三支部協会推薦者(合計90 各会場30名)※三支部協会で調整 3)トップアスリート推薦者 30名程度 ※先着順
日本スポーツ協会連動資格	JSP0公認ラグビーフットボール「コーチ3」
World Rugby連動資格	World Rugbyレベル2
資格保有期間	4年間
資格更新方法	コーチカンファレンス/都道府県協会ブラッシュアップ研修会/JSP0研修会/その他
主催/主管	(公財)日本スポーツ協会 (公財)日本ラグビーフットボール協会

講師条件：日本スポーツ協会規定（原則：A級コーチを有する者）

講師謝金：日本スポーツ協会規定



すべての人を、夢中にできるか。

⑤S級コーチ JRFU公認

カリキュラム	年間計画、チーム戦略、戦術、チームマネジメントなど、チームを指導する為のすべての知識・技能を座学と実技を通して習得します。WRレベル3カリキュラムを用いて行います。 コーチとしての自己分析/チームビジョンの作成/プレイヤーの分析/チーム/ゲームプロフィール/プレーパターン/分析からのゲームプラン/クリティカルインシデント分析(ゲームの重大要因分析)/シーズンプランニング/チームマネジメント
時間	160時間(集合60時間「3日間を2回」/通信100時間)
受講条件	A級コーチ資格保有者(JSPO公認ラグビーフットボール「コーチ3」) 1)指導経験が4年以上ある方(望ましい) 2)定期的に関わる高校生以上の指導現場がある方
受講料	50,000円 ※宿泊費、交通費は含まれません。
開催頻度(年間)	全国1回/年間 ※書類選考により受講者を決定
受講可能人数(年間)	合計 20名程度
World Rugby連動資格	World Rugbyレベル3
資格保有期間	1年間
資格更新方法	コーチカンファレンス/その他
主催/主管	(公財)日本ラグビーフットボール協会

講師条件：World Rugbyエドευケーター（原則：S級コーチを有する者）

講師謝金：World Rugby規定に基づく



すべての人を、夢中にできるか。

4) 資格の更新方法について



JRFU：日本ラグビーフットボール協会 WR：World Rugby JSPO：日本スポーツ協会

5) 日本スポーツ協会指導者制度の変更点について

2019年度より（公財）日本スポーツ協会の資格制度も変更となります。

主な変更点

- ・ 名称の変更
- ・ 教員免許状（保健体育）による共通科目集合講習会免除の廃止
- ・ 共通科目の一部免除の廃止
- ・ 共通科目の実施形態にインターネット環境を必要とした事前事後学習の導入

SPORT 公認スポーツ指導者制度の改定（2019年4月1日）に伴う一部資格名称の変更について

これまで本誌でもお知らせしてきた通り、2019年4月1日（月）から現行の公認スポーツ指導者制度を改定施行します。改定に関する詳細は本誌の次号以降や日本スポーツ協会ホームページなどでも順次掲載する予定ですが、今号では、すでに公認スポーツ指導者資格を保有している方に関わりのある内容についてお知らせします。

■一部の資格名称が変わります
競技別指導者資格（教師・上級教師を除く）の名称が下記の通り変わります。
※その他の資格については、変更はありません。

現行	改定後（2019年4月1日～）
指導員	コーチ1
上級指導員	コーチ2
コーチ	コーチ3
上級コーチ	コーチ4

例)

陸上競技指導員	陸上競技コーチ1
テニスコーチ	テニスコーチ3

●登録証の切り替えについて
新たな資格名称での登録証の発行は2019年4月1日付登録・更新手続きから順次、それぞれの資格更新手続きに併せて行います。現行の資格名称の登録証は、有効期限まで変わらずお使いいただけます。更新手続き以外での登録証の発行については、有料での対応となります。ご希望の方は、本ページ下部に記載の公認スポーツ指導者登録係（TEL:03-5148-1763）または「指導者マイページ」内のメニューの「お問い合わせ」からご連絡ください。

●指導者マイページの表記変更について
指導者マイページに表記されている資格名称は、4月上旬ごろから新名称に切り替わります。指導者マイページ内のオリジナル名刺作成サービスも同時に新名称に切り替わります。
※すでに現行の名称で作成された名刺は2019年4月以降もお使いいただけますが、順次、新名称の名称に変更いただくようお願いいたします。

●その他
資格名称の変更に伴って、指導者の皆さまに行っていただく手続きや追加の講習会などはありません。

■制度改定のロードマップ（参考）

	2018年度	2019年度	2020年度
資格名称	現行名称	新名称	
共通科目I	現行カリキュラムによる通信講座		MCC*にもとづく新カリキュラムによる通信講座
共通科目II-IV	現行カリキュラムによる集合講習会	MCC*にもとづく新カリキュラムによるアクティブ・ラーニング形態の集合講習会	

*モジュール・コア・カリキュラム(MCC)とは「グッドプレーヤーを育成するグッドコーチ」に求められる基本的資質能力とそれらを生かすために必要なカリキュラム、資質能力を「人間力」と「知識・技能」に大別し、人間力を養うための内容がカリキュラム時間数全体の34%(63時間)を占めています。

一部資格名称の変更に関するお問い合わせはこちら

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者登録係
TEL 03-5148-1763
(平日10:00～17:00、土・日・祝日・年末年始を除く)

公認スポーツ指導者マイページにログイン
➡ 上部メニューの「お問い合わせ」
➡ <https://my.japan-sports.or.jp/>



5) 日本スポーツ協会指導者制度の変更点について

日本ラグビーフットボール協会公認 「育成コーチ」 (新資格「B級コーチ」)

日本スポーツ協会公認ラグビーフットボール「指導員」 → 「**コーチ1**」

日本ラグビーフットボール協会公認 「強化コーチ」 (新資格「A級コーチ」)

日本スポーツ協会公認ラグビーフットボール「コーチ」 → 「**コーチ3**」

6) 資格保有の義務

1. 登録チームの指導者資格保有の義務

加盟チームは、JRFU指導者資格（スタートコーチ資格以上）を有する指導者を監督またはコーチとして配置しなければならない。

2. 大会出場チームの指導者資格保有の義務

各大会へ出場するチームは、次の通りJRFU指導者資格を有する指導者を監督またはコーチとして配置しなければならない。尚完全実施までに猶予期間を設ける。

- ・ トップチャレンジリーグ、全国大学選手権：A級コーチ資格以上（2022年度から実施）
- ・ 日本協会主催の選抜チームによる全国大会：B級コーチ資格以上（2020年度から実施）
- ・ 日本協会、支部協会及び都道府県協会主催の小学生及び中学生を対象とした年齢別チームを編成し実施する大会：スタートコーチ資格以上（2020年度から実施）
- ・ 国民スポーツ大会（旧国民体育大会）：（公財）日本スポーツ協会規定に則る。

3. 日本代表及びトップリーグチーム指導者の資格保有の義務

- ・ 日本代表及びトップリーグチームの監督もしくはヘッドコーチは、S級コーチあるいは同等の資格を有していなければならない。
- ・ 日本代表及びトップリーグチームは、A級コーチあるいは同等の資格を有する指導者をコーチとして配置しなければならない。



すべての人を、夢中にできるか。

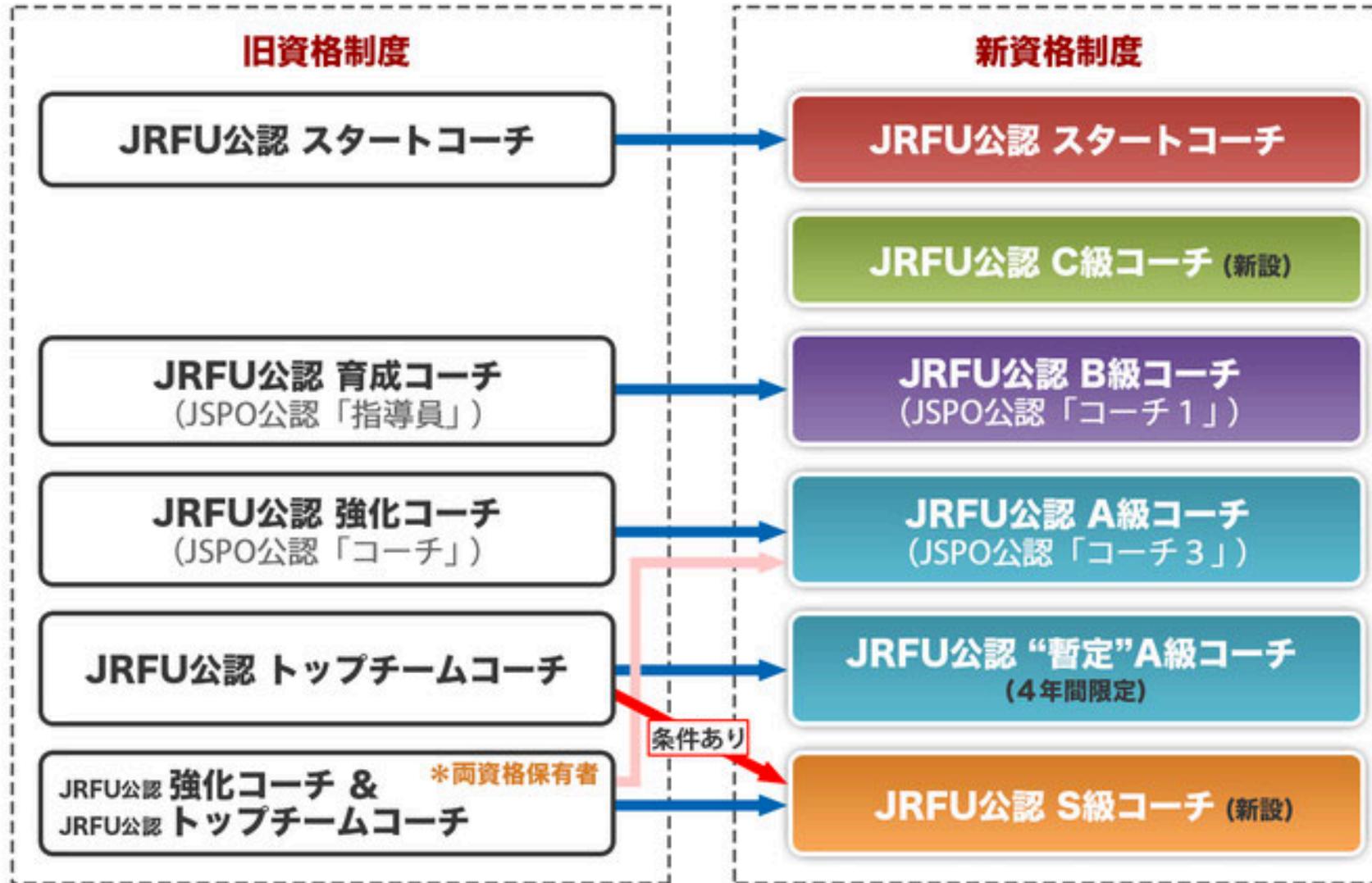
3. 旧資格制度からの移行

- 1) スタートコーチの移行について
- 2) 育成コーチの移行について
- 3) 強化コーチの移行について
- 4) トップチームコーチの移行について
- 5) S級コーチへの移行対象者について



すべての人を、夢中にできるか。

3. 旧資格からの移行について



JRFU：日本ラグビーフットボール協会 WR：World Rugby JSPO：日本スポーツ協会

1) スタートコーチの移行について

スタートコーチ → スタートコーチに自動移行
資格の有効期限については移行前に取得した期日で引き継がれます。

2) 育成コーチの移行について

育成コーチ → B級コーチに自動移行
資格の有効期限については移行前に取得した期日で引き継がれます。

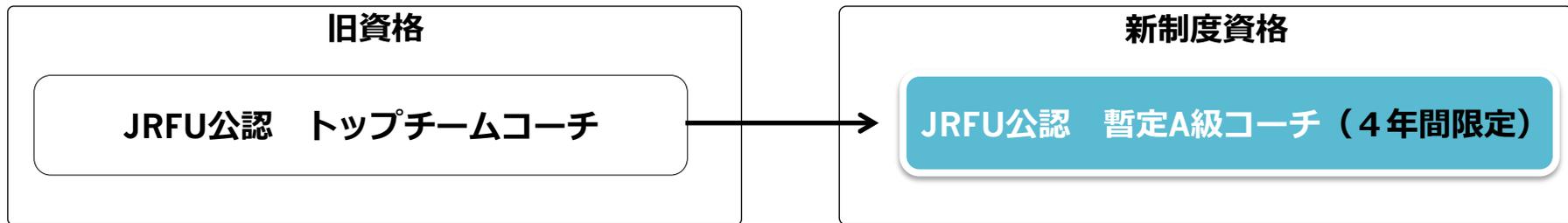
3) 強化コーチの移行について

強化コーチ → A級コーチに自動移行
資格の有効期限については移行前に取得した期日で引き継がれます。



すべての人を、夢中にできるか。

4) トップチームコーチ保持者の移行について



トップチームコーチ保持者（WRレベル3保持者）は、4年間は暫定的に日本ラグビーフットボール協会公認A級コーチとして登録する。2022年度（有効期限：2023年3月31日）までにA級コーチ講習会に参加し、日本スポーツ協会の共通科目Ⅲを受講することでS級コーチとなる。（ラグビーの専門科目は免除）。なお、4年以内に日本スポーツ協会の資格を取得しない場合は自動的に日本ラグビーフットボール協会公認C級コーチ（有効期限：2024年3月31日）となる。

なお暫定A級コーチ（暫定）は、日本スポーツ協会公認資格「コーチ3」の付与はないので、国民スポーツ大会の監督条件を満たしていることにはならない。

これまで資格更新の義務としていた1年1回のトップコーチ会議は2019年度よりB級コーチまでを含めたコーチカンファレンスとして開催される。A級コーチのブラッシュアップ期間は4年に1回となることから、暫定A級コーチのコーチカンファレンスへの参加の義務はない。



すべての人を、夢中にできるか。

5) S級コーチへの移行対象者について

JRFU公認 強化コーチ
JRFU公認 トップコーチ保有者
※下記に記載する基準を満たす者

JRFU公認 S級コーチ (新設)

トップチームコーチもしくは強化コーチ資格保持者で下記のいずれからの条件を満たす者はS級コーチへ移行する。移行を希望する指導者は自身で申請申請を行う。

- 1) 強化コーチとトップチームコーチの両方の資格を保有する者
- 2) トップチームコーチでトップリーグにおいて3年間以上ヘッドコーチを務めた経験のある者
- 3) トップチームコーチで日本ラグビーフットボール協会技術委員会HPコーチング部門より推薦を受けた者
- 4) 強化コーチでWorld Rugbyレベル3を持ち、日本ラグビーフットボール協会普及育成委員会コーチング部門より推薦を受けた者

※日本ラグビーフットボール協会技術委員会HPコーチング部門の推薦基準

- ・2014年度から2018年度の期間に日本代表の指導者としての活動経験がある者（スポットコーチは含まない）
- ・2014年度から2018年度の期間にジュニアジャパン/日本代表A/日本代表U20/U19日本代表/U17日本代表（このレベルに準ずるチーム/この基準に準ずる女子ナショナルチーム）のヘッドコーチ経験のある者
- ・2014年以降にスーパーラグビー「サンウルブス」の指導者としての活動経験のある者（スポットコーチは含まない）

※日本ラグビーフットボール協会普及育成委員会コーチング部門より推薦基準

- ・強化コーチとWRエドゥケーター資格をもち、World Rugbyレベル3の講師を務めた経験があり、コーチング部門より優れた指導力があると認められた者

※今後のS級コーチの受講資格とは異なる。今後はA級コーチ資格保持（JSPOコーチ3）が受講条件となる。上記はあくまでも移行処置として行う。

6) その他の特記事項

◆トップリーグの指導に関する特記事項

World Rugbyレベル3保有者で今回の処置で暫定A級コーチとなる方々は、トップリーグチーム指導者の資格保有の義務であるS級コーチと同等の資格を有する者となります。よって、引き続き、トップリーグで監督もしくはヘッドコーチを務めることは問題ありません。

◆国民スポーツ大会（旧国民体育大会）の指導について特記事項

日本スポーツ大会の監督を務める者の規定が日本スポーツ協会ラグビーフットボール「コーチ3」保有者となります。今回の移行処置により、日本スポーツ協会ラグビーフットボール「コーチ3」をお持ちでない状態でA級コーチ（暫定）とS級コーチになれる方は、日本スポーツ大会で監督を務めることはできません。